



茨城の土木遺産

関宿水閘門 (五霞町)

昭和2年(1927年)竣工

利根川、江戸川改修事業の一環として、江戸川流頭部の付け替えに伴い江戸川の利根川分派部に建設された長さ80.3m、高さ10.6mの水門。平時は利根川から江戸川に流入する水量を調整して用水の確保を図るとともに舟運の安定を期し、洪水時には左岸の高水路部と相まって洪水の分流を行う。躯体は鉄筋コンクリート造り。当時は、大型の河川構造物の建設はレンガ造りからコンクリート造りへの転換期にあり、土木技術史上から価値が高い。近代土木事業として計画的に江戸川分派を見込む利根川改修計画を後世に伝える重要な歴史的構造物でもある。平成15年度に土木学会選奨土木遺産に認定された。

主な内容

- ▼ 石津会長が田村県土木部長と対談
- ▼ 支部対抗チャリティーゴルフ大会を開催
- ▼ 建設産業支援セミナーを開催
- ▼ 各支部がASP講習会やICT体験会

本会ホームページに「茨建協ニュース」の内容を掲載しています。ご活用ください。

本会はコンプライアンス(法令遵守)をさらに徹底します

発行 (一般社団法人) 茨城県建設業協会

〒310-0062 茨城県水戸市大町 3-1-22

電話 029-221-5126 (代)

H P <http://www.ibaken.or.jp/>

編集 日本工業経済新聞社・水戸支局

業界と行政は「パートナーの関係」

石津会長、田村県土木部長と対談



田村土木部長

本会の石津健光会長は、茨城県土木部の田村央部長と「建設業の未来」について対談を行いました。担い手確保・育成や働き方改革、デジタル化への対応など克服すべき課題は山積していますが、「解決に向けて互いに手を取り合って協力していくことが大切」との認識で一致。行政と業界は「パートナーの関係」として、より一層の災害に強い県土づくりに取り組むことを確認しました。



石津会長

■ 担い手の確保・育成を推進 ■

田村土木部長 県土木部では担い手確保・育成の取り組みとして、就労環境の改善や生産性向上、若年層の入職促進などを進めているところ。

石津会長 将来の担い手の確保・育成は、一番悩ましい課題と感じます。働き方改革などに取り組みながら、魅力ある建設現場を見てもらい、建設フェスタやインターンシップ、現場見学会を通じ建設業の魅力を伝えることが大事になります。

建設業界に興味を持って入社してくれる人は以前と比べると、かなり多くなっています。災害が頻発化・激甚化する中、業界が被災地を復旧・復興する姿を学生たちにPRしており、興味を持ってくれる人が増えています。

若い人たちが興味をもってくれる取り組みは、デジタル化やデジタルトランスフォーメーション(DX)。受発注者が一体となって取り組める体制づくりを協会として整えていきたい。

田村 協会製作の建設図鑑を昨年度寄付してもらい小中学校に配布しました。若い人が興味を持つきっかけになるのではと期待しています。

石津 建設図鑑を見た子どもたちが実際に現地に訪れて「こういうことだったんだ」と興味を持ってくれたと聞きました。シリーズものとして



現場見学会で建設業の魅力をアピール

続けていきたいですね。

■ 就労環境を改善 ■

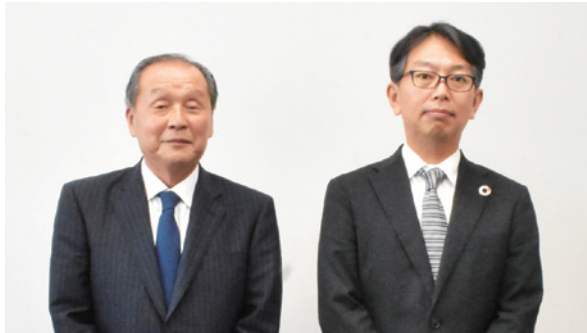
田村 就労環境の改善も重要です。県では、完全週休二日制促進工事、快適トイレ普及促進工事に積極的に取り組んでいます。

石津 協会も4月から4週8休を始めています。ただ、どうしても自然を相手にする仕事であるため土日に出ないといけない可能性があります。また年度末など工期末が近づいてくると多少無理をせざるを得ない時期があります。

4週8休を謳わないと若い人たちが興味を示してくれないと肌で感じているため徹底していきたい。一方で専門職の方は「日曜は良いけど、土曜は仕事やってよ」と言う声がほとんどです。

担い手の確保・育成に注力

女性活躍、DXを推進



「受発注者はパートナー」との認識で一致しました

■ 残業規制と適正工期 ■

田村 時間外労働時間の罰則付き上限規制の適用が2年後（令和6年4月1日）に迫っています。

石津 残業規制は工期との兼ね合いがあります。公共事業では、ある程度理解を示してくれます。しかし民間建築だと厳しいケースがあります。

田村 適正工期の確保に関する法律等は整備されています。関係団体の皆様には法律等に沿った適正工期を確保する旨を働きかけており、引き続き取り組んでいきます。

■ 女性活躍 ■

石津 女性が産休・育休を取るとブランクが生まれます。今はリモートで子育てしながら参画できる仕事はあります。リモートで携わった仕事も実績・資格として認められる仕組みを考えてもらえるとありがたい。

田村 課題があると思うが、どのような形で実績として認められるか検討の余地があるので、今後の研究テーマになると考えている。

■ デジタル化、DX ■

田村 県土木部ではICT施工について、チャレンジいばらき簡単活用型を今年度から新設しました。比較的成本を抑えた技術の部分活用

で、まずはICTの活用を実感してもらいたいという考えです。遠隔臨場の拡大、情報共有システム（ASP）の利用も本格化させています。

石津 DXは避けて通れない分野。県と協会が協力し勉強会や意見交換などをお願いします。

■ 建設キャリアアップシステム（CCUS） ■

石津 全国レベルで見てもゼネコンは積極的に取り組んでいるが、地方は高齢化により意識的に取り組んでいる企業が少ないようです。現場で活躍する方々に馴染んでいない点も挙げられます。

田村 県では、モデル工事は成績評定で加点しています。CCUSは職人の皆様のためのシステムであるため、その方たちにメリットを感じてもらわないと広がりません。行政と業界が一緒に手を取り合って取り組んでいきましょう。

■ 最後に一言 ■

田村 受発注者の関係は、まさにパートナー。改善すべき点を改善し、協力しながら取り組んでいく必要があると考えています。

石津 我々はベストパートナー。頻発化・激甚化する自然災害に対応するため、地域の守り手として多くの責任を感じて取り組んでいきたい。



ICT施工の推進へ体験会を開催しています

経営企画委員会

CCUSへの対応推進



経営企画委員会（鶴田哲男委員長）が6月21日に水戸市の茨城県建設センターで開かれ、令和4年度の事業計画を協議しました。令和4年度は建設キャリアアップシステム（CCUS）への普及促進への勉強会の開催、働き方改革の推進へ週休2日制の実施などに取り組みます。あいさつで鶴田委員長は「全員が委員長との気持ちで、前向きにご意見をお願い申し上げます」と述べました。

土木委員会

本年度事業計画を協議



土木委員会（梅原基弘委員長）が6月24日に水戸市の茨城県建設センターで開かれ、意見交換の推進など令和4年度の事業計画を協議しました。また県の諸制度にきめ細かく対応するため委員会の中でワーキンググループを設けることが承認されました。梅原委員長は「事業内容をしっかり決めて、より良い委員会活動が行えるよう事業推進を図りたい」とあいさつしました。

第7回支部対抗

チャリティーゴルフ大会を開催



石津会長（左）が茨城新聞社の二方水戸支社長（右）にチャリティー金を託しました

本会は6月13日、第7回支部対抗チャリティーゴルフ大会を常総市の水海道ゴルフクラブで開催。集まったチャリティー金13万7,000円を茨城新聞社文化福祉事業団に寄付しました。チャリティー金について石津健光会長は「参加された皆さまに深く感謝申し上げます」とあいさつしました。

大会は新ペリア方式で競いました。成績上位の支部と個人は次の通りです（敬称略）。

【団体】◆優勝＝鉾田支部◆準優勝＝筑西支部

◆3位＝水戸支部

【個人（男子）】◆優勝＝高野修也（土浦支部）◆準優勝＝田中忠（鉾田支部）◆3位＝北島正進（筑西支部）◆4位＝小澤淳（境支部）◆5位＝野口文男（常総支部）◆ベストグロス賞＝石井公彦（大子支部）

【個人（女子）】◆優勝＝石井高子（本部女子）

県建産連が総会

課題解決へ意見交換

茨城県建設産業団体連合会（会長・石津健光本会会長）は6月23日、令和4年度定時総会を茨城県建設センターで開き、団体間の意見交換などの令和4年度事業計画を決定しました。スキルアップセミナーや各種セミナーも開催します。役員改選では石津会長の再任が承認されました。

関東整備局が入札説明会

賃上げ加重点的に



本会の会員企業を対象とする国土交通省関東地方整備局による令和4年度の入札・契約、総合評価の実施方針などの説明会が6月24日、水戸市の茨城県建設技術研修センターで開かれました。説明会では総合評価における賃上げ企業の加点措置について重点的に説明がありました。

建設産業育成支援セミナー

検査や総合評価研修



本会と日本建設情報技術センターは6月30日、全国建設産業育成支援セミナーを水戸市の茨城県建設技術研修センターで開催。参加者は公共工事の品質確保への取り組みとして工事検査や働き方改革、総合評価の変化と対応を研修しました。

広告優秀企画賞を受賞

若者や女性活躍PR



受賞した紙面と石津会長

本会が昨年度に茨城新聞に掲載した広告「建設業の未来を考える」が第29回茨城新聞広告賞の優秀企画賞を受賞しました。石津健光会長と建設未来協議会の鈴木達二会長の対談、石津会長と建女ひばり会の柳瀬香織会長の対談を掲載。目を引き、ビジュアルも良かったことが評価されました。

3支部が県と意見交換

高萩支部



高萩支部（秋山光伯支部長）は6月21日、茨城県高萩工事事務所（小菌江実所長）との意見交換会を開催。本年度の予算や発注見通し、ICT活用や安全管理などで意見を交わしました。秋山支部長は「ICTなど新たな取り組みが進んでいる。積極的に取り入れていく」とあいさつしました。

土浦支部



土浦支部（小林伸行支部長）は茨城県土浦土木事務所（大石直人所長）、県流域下水道事務所（長山公信所長）との意見交換会を6月20日に実施。本年度の主要事業等について意見を交わしました。小林支部長は「新しい取り組みを勉強しながら活用していきたい」と述べました。

境支部



境支部（新井孝支部長）は6月3日、茨城県境工事事務所（野島泰久所長）との意見交換会を開催。DXに伴うBIM/CIM運用や大雨・地震時のパトロールなどについて意見を交わしました。新井支部長は「ICTやASPなどへの理解を深めなければならない」とあいさつしました。

小規模 ICT 施工推進へ講習

各支部等が
研修会を開催

水戸支部



水戸支部（下田德行支部長）は6月15日、茨城県水戸土木事務所と小規模現場におけるICT施工体験会を行方市の㈱トプコン関東トレーニングセンターで実施。3次元設計データ・施工データの作成を学び、施工マシンガイダンス、出来形管理ワンマン測量などを体験しました。

筑西支部



筑西支部（小薬拓巳支部長）は6月13日、茨城県筑西土木事務所と小規模現場ICT体験会を行方市の㈱トプコン関東トレーニングセンターで開催。3次元設計データ作成を研修しましたほか、ICT機器「杭ナビ」を使用した測量・施工を体験し、活用推進へ理解を深めました。

高萩支部



高萩支部（秋山光伯支部長）は6月10日、茨城県高萩工事事務所と小規模現場におけるICT体験会を開催。支部員や職員約40人が参加し、3次元設計・施工データの作成などを体験しました。県が新設したICT施工の「チャレンジいばらき簡単活用型」についても理解を深めました。

境支部



境支部（新井孝支部長）は6月17日、茨城県境工事事務所と小規模現場ICT体験会を支部会館で開催。3次元設計データと施工データを作成し、道路改良工事の現場でICT施工を体感しました。小沢勲副支部長は「十二分に勉強し、良い体験をしてほしい」と呼び掛けました。

竜ヶ崎支部



竜ヶ崎支部（細谷武史支部長）は6月7日、茨城県竜ヶ崎工事事務所と小規模現場ICT体験会を工事事務所で開催。ICT施工データを作成し、現場（北浦川緑地公園、取手市）で活用方法を学びました。細谷支部長は「学んだことをしっかりと実践してほしい」と呼び掛けました。

建設未来協議会常陸大宮・大子地区



本会の建設未来協議会常陸大宮・大子地区（生田目憲明幹事）は6月21日、茨城県常陸大宮土木事務所と現場実務研修会を開催。若手技術者などがICT活用促進工事の講義や舗装現場での切削作業を見学しました。生田目地区幹事は「積極的に現場に取り入れてほしい」と呼び掛けました。

県の情報共有システム (ASP) 生産性向上へ研修会

水戸支部



水戸支部（下田德行支部長）は6月7日、茨城県水戸土木事務所と県の情報共有システム（ASP）の講習会を県水戸合同庁舎で開催。実施要領や利用の流れなどを研修しました。下田支部長は「しっかり研修して、会社の他の方にもシステムを浸透させてください」とあいさつしました。

高萩支部



高萩支部（秋山光伯支部長）は6月9日、茨城県高萩工事事務所と県土木部発注工事における情報共有システム（ASP）講習会を開催。システムの概要や実施要領、基本操作を学びました。秋山支部長は「新しい取り組みにより、効率的に業務を進めていってほしい」と期待を込めました。

太田支部



太田支部（瀬谷実支部長）は6月9日、茨城県常陸太田工事事務所と情報共有システム（ASP）の講習会を開催。本年度から営繕工事を除く原則全工事で活用されるシステムについて理解を深めました。瀬谷支部長は「学んだことを現場で十分に生かしてもらいたい」と期待を込めました。

竜ヶ崎支部



竜ヶ崎支部（細谷武史支部長）は6月21日、茨城県竜ヶ崎工事事務所と県の情報共有システム（ASP）の講習会を開催。システムの基本操作などを学びました。細谷支部長は「現場の新たな働き方を推進していかなければならない。よく学び、共有していただきたい」と伝えました。

上曽トンネルで現場見学会

筑西支部



筑西支部（小薬拓巳支部長）は6月7日、(仮称)上曽トンネル本体工事（桜川工区）の現場見学会を開催。最新の施工技術を体感するとともに、発破の瞬間に立ち会いました。白田唯雄副支部長は「新しい技術や工程管理、安全管理など勉強になる。役立ててほしい」と呼び掛けました。

現場代理人、女性職員が視察研修

常総支部



女性職員が視察研修を行いました

常総支部（中川原勇支部長）は6月1日、現場代理人現場見学会を実施。埼玉県春日部市の首都圏外郭放水路調圧水槽（地下神殿）と工業技術博物館を見学。支部会員事業所より41人が参加しました。

また6月23日には支部会員の女性職員と建女ひばり会との合同研修視察を実施。大洗水族館と筑波宇宙センターを訪れ、海の世界と宇宙をテーマに研修を行いました。

献血活動で地域貢献

筑西支部



筑西支部（小薬拓巳支部長）は6月13日、地域貢献活動として支部員38人が血液を提供しました。筑西支部の献血活動は7回目。小薬支部長は「今後も活動を継続していきたい」と話しています。

常総支部



常総支部（中川原勇支部長）は6月6日、献血活動を行い、支部員116人が協力しました。中川原支部長は「来年で20回目を迎えるが、今後も継続して行っていきたい」と話しています。

オンライン活用し安全講習

筑西支部



筑西支部（小薬拓巳支部長）は5月20日、茨城県筑西土木事務所とオンライン形式の安全衛生講習会を開催。安全対策や盗難対策などを研修しました。小薬支部長は「Web会議の普及で新型コロナウイルスの影響を軽減した講習会が可能となる」と話しました。

砂場清掃で園児と交流

建設未来協議会



本会の建設未来協議会（鈴木達二会長）は6月9日、鉾田市の青山こども園で「砂場クリーン作戦」を実施。砂場の入れ替えや重機の操縦体験を行い、快適な遊び場の提供と建設業のイメージアップに貢献しました。活動後には「いばらき建設図鑑」を園児たちにプレゼントしました。

建設産業再生へ足立敏之議員が個人演説会



足立敏之参議院議員による個人演説会が7月3日につくば国際会議場で開かれ、本会会員などが集まりました。足立議員は「建設産業の再生なくして、日本の再生なし」と訴えました。

足立議員は7月10日の参議院議員選挙で建設・住宅産業代表として2期目当選を果たしました。

会員の動向

〈新規入会〉

▽土浦支部

福井建設(株)

代表取締役 **笠川 忠二**

住所 〒315-0042 石岡市茨城3-17-4

電話 0299-24-2840

建設フェスタ2022 10月8日(土)開催

建設業の魅力をアピールする「建設フェスタ2022」が10月8日(土)に笠松運動公園(ひたちなか市)の屋内水泳プール西側特設会場で開催されることが決定しました。建設フェスタの開催は3年ぶりとなります。